

早春の生き物たち

佐野由輝（大網白里市）

日 時：2024年3月10日（日）10時～12時 天候：晴れ

参加者：29名（大人18名、子ども11名、指導員11名）

担当指導員：佐野、山下

まだ、冬の名残を感じる肌寒い日でしたが、自然界は、確実に春に近づいています。今回のテーマは、「早春の生き物たち」。寒い冬を乗り切った生き物たちが、どのような姿をして、私たちの前に現れるでしょうか。ドキドキ、わくわくしながら、観察会のスタートです。

まずは、シデの冬芽の観察。2月の段階では、まだ、堅く閉じられていましたが、日の当たる場所の冬芽は、徐々にほころびはじめ、葉っぱの赤ちゃんがちょこんと顔を出していました。これから、どんどん、葉っぱを広げていくことでしょう。

芝生広場に移動して、芝生の上を観察しました。ぼんやりと見たら、芝が広がっているだけに見えますが、じっくりと、目をこらして見てみると、ころころしたウサギの糞があちこちに固まっていました。これには、大人も子どももびっくり。子どもたちは「ここにもあった！」と、糞さがしに夢中になり、大人たちは、昭和の森にウサギが住んでいることに驚いていました。姿は見えねども、ウサギも活動を開始しているんですね。

続いて、たくさんの穴が開いたギシギシの葉っぱを裏返すと、瑠璃色に輝く小さな虫が身を潜めていました。その名もずばりルリハムシ。春の訪れとともに、真っ先に活動を始める昆虫ですね。近くを観察していると、ルリハムシだけではなく、テントウムシも元気に活動していました。暖かくなるにつれ、春を待ちわびたたくさんの虫たちが現れてくるでしょう。

次に、中菖蒲田に移動しました。途中の坂道では、日当たりの良い土手に、タンポポやスマレがかわいらしい花を咲かせていました。そして、菖蒲田の畦では、によきによきと、ツクシが頭を出していました。タンポポやツクシを見ると、春を感じますよね。参加者の皆さんの表情もにこやかに became。さらに、ツクシたちのまわりをよく見ると、根を出しているどんぐりがありました。お母さんの木から落ちて、転がったどんぐりが柔らかい土の中に、根を伸ばし、水や養分を吸い上げながら、成長していくんですね。

最後に、田んぼビオトープで、水辺の生き物たちを観察しました。最初に、水の中に手を入れてみると、湧水がわき出ている場所の水はとても冷たかったのですが、田んぼの中の水は、それほどは冷たくなく、少しずつ水の温度も上がってきていることが分かりました。そして、田んぼの水の中には、たくさんのオタマジャクシが団子状に集まって、じっとしていました。オタマジャクシの動きは、まだ、小さかったですが、メダカたちは、すいすいと泳ぎ回っていました。メダカの学校では、新学期が始まったようですね。

昭和の森の中で、たくさんの春の生き物を見つけることができ、参加者の皆さんの心も温かくなったようです。



春を告げるタンポポ



田んぼで春さがし